

# 2021年川崎市長選挙の結果について

## 川崎民主市政をつくる会/声明

10月31日投開票で行われた川崎市長選挙で、川崎民主市政をつくる会が擁立した市古ひろかず候補は、84,054票を獲得しましたが及ばず、現市長の3選を許す結果となりました。

市古候補をご支持いただいたみなさん、同候補の勝利のために昼夜を分かたずご協力くださったみなさんに、心からの敬意と感謝を表明します。本当にありがとうございました。

市古ひろかず候補は、新型コロナから市民の命を守る、市民のくらしを守る、市民の声を聞く、という「3つのチェンジ」を掲げ、「今こそ市政の転換を」と訴えて選挙に臨みました。

しかし、今回の市長選挙は、コロナ禍による集会などの制限に加えて、野党の連合政権を目指す歴史的な総選挙との同時選挙となり、市長選挙独自の活動は多大な制約を余儀なくされました。

また、現職市長である福田陣営は、コロナ対策を理由に宣伝カーも出さず、市民の前にほとんど姿を見せないなど、政策論争によって市民の審判を仰ぐことを徹底的に回避する姿勢に終始しました。

こうしたなかで、対決点が広い有権者のなかで鮮明にならず、「チェンジ」の方向を十分浸透できないまま投票日を迎えることになりました。皆さんのご期待に沿う結果にならなかったことは、私たちの力不足によるものでした。お詫び申し上げます。

市古候補が勝利できなかったことは残念ですが、今度の選挙は、市民の命とくらしを守り市政の転換をかちとるたたかひの今後の前進につながる内容が随所に生まれています。

第1に、大企業優先、国いいなりの福田市政の施策が、市民生活を圧迫していることを明らかにしたことです。

全国トップクラスの財源力がありながら、福田市政が不要不急の大規模開発や都市再開発を優先させたことが市民生活の困難をもたらしている大きな原因となっていることがいっそうはっきりしました。

通院で6年生までしか助成しない小児医療費助成制度。認可保育園の不足。2600人を超える待機者がいるのに新規計画のない特養ホーム。新型コロナ感染防止対策の無策など、市民のいのちと暮らしを守る諸施策の遅れをこれ以上続けさせるわけにはいきません。

第2に、今回の市長選挙を通して、市内各地の住民運動や市民団体が合流し、市民が主人公となって川崎市政を市民本位に変えることを求める流れが広がったことは大きな財産でした。

川崎民主市政をつくる会は昨年12月から市内各所で20回余の「市民のための市政をつくる懇談会」を開き、地域の要求を聞きとり、政策に反映する努力を続けました。こうした活動のなかで、さまざまな市民団体が市民の声を聞かない福田市政の3選を許さないと立ち上がりました。各区の会も次々と結成され、集いや決起集会を開くなど活発に活動しました。

こうして、運動規模が一日一日と拡大する中で、意気高く選挙戦を戦うことができました。候補者の訴えやリレートークでは、「本当に実現してほしい、お願いします!」と共感が広がりました。ホームページやツイッターを活用した新たな広がりも進みました。市長選では初めて本格的にSNS分野にも挑戦しました。これを継続していくことも課題です。

川崎民主市政をつくる会は、選挙を通じて生まれた新たなつながりを確信にして、市長選挙で訴えた公約の実現のために、市民のみなさんと力を合わせ奮闘する決意です。そして、4年後の2025年川崎市長選挙の勝利をめざして、新たなスタートを開始することをみなさんに心より呼びかけます。

11月22日(月) 川崎民主市政をつくる会 代表委員会